

第1 基本方針

阿蘇地域には、約2万2千haに及ぶ牧野が分布し、約170牧野組合で入会権のもと利用されている。これら草資源は、放牧や採草に利用されるなど、当地域の基幹産業である畜産振興にとって重要な生産基盤となっている。

しかしながら、高齢化や後継者不足による有畜農家の減少により、草地の遊休化や荒廃が進み、さらに、放牧を中止する組合も現れ、草地の利用率の低下や阿蘇特有の景観への影響が懸念される状況にある。また、輸入穀物飼料価格高騰の影響により、自給飼料の増産対策と有効利用が喫緊の課題となっている。

このような背景を踏まえ、草資源の有効利用と環境保全に対応した草地の管理方式や、草地を高度に利用した肉用牛の生産方式、ならびに消費者の「食」への安全・安心志向に即した自給粗飼料主体による商品性の高い牛肉生産の技術開発を行う。

第2 重要研究事項

1 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定

- (1) 阿蘇地域に適応した牧草の品種を選定し、その栽培利用技術を検討する。
- (2) 供卵牛から採卵を行い、受精卵を製造し、受け皿の県酪連に受精卵を供給する。

2 草地資源を活かした低コスト肉用牛生産を支える技術の開発

- (1) 草地の安定的生産のための効果的な施肥技術を検討する。
- (2) 簡易草地造成法を活用した草地更新技術を検討する。
- (3) 放牧を利用した国産飼料利用率の高い肥育技術を開発する。
- (4) ICTを活用した放牧牛と草地の省力管理技術を開発する。

3 発情誘起と簡易分娩予測法による安定的農用馬生産技術の開発

- (1) 排卵誘発法を用いた農用馬の人工授精技術を検討する。
- (2) 乳汁中pHを指標とした分娩予測法を検討する。

4 地球温暖化に対応した肉用牛生産のための褐毛和種の放牧繁殖飼育技術の開発

- (1) あか牛の環境順応能力評価

5 あか牛の遺伝的多様性の維持手法と新たな肉質評価形質の開発

- (1) 放牧肥育されたあか牛の美味しさとストレス度を評価する。

第3 試験研究課題一覧

【草地畜産研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
草地畜産	1 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 牧草の栽培利用技術の開発	636	県単	① 高標高地域における牧草の新品種選定	H3～継続
		(2) あか牛新生産システム緊急対策	畜産課	令達	① 受精卵移植を利用したあか牛繁殖雌牛の増産	H26～H29
	2 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 草地資源を活用した低コスト肉用牛放牧技術の開発	9,020	県単	① 草地の安定的生産のための効果的な施肥技術の検討	H25～H27
					② 簡易草地造成法を活用した草地更新技術の検討	H24～H27
					③ 放牧を利用した国産飼料利用率の高い肥育技術の検討	H24～H27
					④ ICTを活用した放牧牛と草地の省力管理技術の開発 ・繁殖技術管理 ・育成技術管理 ・草地管理	H24～H28
(2) 発情誘起と簡易分娩予測法による安定的農用馬生産技術の開発	畜産課	令達	① 排卵誘起法におけるホルモン剤接種時期の検討	H25～H27		
			② 乳汁中pHを指標とした分娩予測の検討	H25～H27		
(3) 地球温暖化に対応した肉用牛生産のための褐毛和種の放牧繁殖飼育技術の開発	1,800	外部資金	① あか牛の環境順応能力評価	H25～H27		
(4) あか牛の遺伝的多様性の維持手法と新たな肉質評価形質の開発(再掲)	3,657 総額	県単	① DNA技術を用いたあか牛の遺伝的多様性の解析とその保全(畜産研究所)	H25～H27		
			② 放牧肥育されたあか牛の美味しさとストレス度の評価(草地畜産研究所)	H25～H27		

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題